

会 議 録

1 会議名

令和2年度第7回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・くわどり湯ったり村の現状説明に対する地域団体からの意見について（公開）

【協議事項】

- ・令和3年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

令和3年2月9日（火）午後6時30分から午後7時26分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 坪田 剛（会長）、金森幸雄（副会長）、安達麻美、齊藤徳夫、
佐藤寿美子、佐藤峰生、田村 隆、荷屋和夫、水嶋豊秋、横田正美
（欠席者2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、
霜越会計年度任用職員
施設経営管理室：竹下室長、小関係長

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：荷屋委員に依頼

議題【報告事項】くわどり湯ったり村の現状説明に対する地域団体からの意見について、担当課へ説明を求める。

【施設経営管理室：竹下室長】

昨年の9月以降、温浴宿泊施設の見直しを進めていく前段で施設の収支状況や指定管理者の経営状況の現状について地域協議会の皆様にご説明をさせていただきました。その後、町内会長協議会や地域団体へも同様の説明をし、その結果を資料No.1にて示させていただきましたのでご覧いただきたい。

- ・資料No.1「くわどり湯ったり村の現状説明に対する地域団体からの意見について」に基づき説明

現在、市として公の施設の方向性を示す適正配置計画を策定している。温浴宿泊施設については重要な施設でもあるので、方向性の検討に当たっては地域の皆様と十分に検討して引き続き協議させていただくこととしている。一方で来年度末には現指定管理者の更新を迎える。そういったことも踏まえると、次年度には一定の方向性を協議し検討していかなければならないと考えている。

この方向性の協議を進めるに当たり、地域の皆様からの熱い思いは地域振興に属する部分だが、こういった思いも大事にしていかなければいけないと思う。一方で行革的な観点でも、将来的な市政運営の方向性も検討していかなければいけない。

私どもは施設の経営に着目して、いろいろな取り組みをしているが、その施設の老朽化度や収益にも着目したいと考えている。その中で考えていかなければいけない論点の一つが「まちづくりのためにどうしていくのか」が非常に重要だと考えている。

市の内部としても、私ども施設経営管理室のみでなく、自治・地域振興課や観光交流推進課でも利用促進に、どう生かしていくかといった観点でも検討は進めている。

【坪田会長】

説明に対し、質疑を求める。

【水嶋委員】

説明の中で「指定管理者の更新がある」という説明があったが、もし、その更新に応募する人がいなければどうなるのか。

【施設経営管理室：竹下室長】

指定管理者自体が随意契約であり、リフレ上越山里振興(株)に公募という形で、任意で指定管理者をお願いして受託していただいている状況である。また令和3年度末の指定管理者の更新に当たっては施設の方向性を継続していくのであれば引き続きどのような指定管理者をお願いするのかという論点も出てくる。現在、施設の方向性を市としてどうするのか、まずはそこを着眼点として検討を進めていただきたいと思っているので、指定管理者の応募がないということは想定していない。

昨年度の決算状況は先回の協議会で説明したが、直近の状況も併せてご説明させていただく。

秋以降回復傾向であったが、新型コロナの影響が非常に大きく、また第3波ということで非常に経営状況が厳しい。他区でも温浴宿泊施設の所管をしているが、日帰り温浴をメインとしているところは、それでも利用は多い状況である。一方で宿泊がメインとなっているところは壊滅的な収支状況になっている。1か月間宿泊の予約がないような施設もある。こういった側面がいつまで続くのか私どもも危惧しているところであり、令和3年度もどうしていくのかというのは大きな論点になってくると思っている。だが、施設自体の機能を休止してしまうと、次の再開に向けた経費的な面や労働力の面で再開が非常に厳しくなるといった側面も過去の事例の中で承知しているので、私どもとしても何とか機能は維持していかなければいけないと考えている。そういったことも皆様と十分協議させていただく中で、いろいろな方向性から検討していければと思っている。

【水嶋委員】

市の方向性が出ないと経営も分からないし、この地区事態が過疎化で人口が減るばかりである。町内会の維持も大変になってきているので市から見放されたら、どんなに営業努力をしても難しいのではないかと。

【施設経営管理室：竹下室長】

施設を所管する課としては、本来、その設置目的に準じた施設の最大限の活用を第一に考えなければいけない。そもそも利用促進をこれまで積極的にしてきたのかということ、私も過去の取り組みを見てみると、そこまで市として本当に取り組んできたのかは見いだせない部分もある。そういった利用促進を地域の皆様を指定管理者が一丸となって取り組むことが重要だと思っているが、また一方で、いろいろな行政改革の制約もあるかと思う。いずれにしても、その地域の資源をどのように活用していくのか、この地域をどうしていくのか、一施設の存続・廃止の話ではなく、その方向性の一端が施設をどう

するのかという話になってくるかと思うので、数字的な面から見てしまうような部署の感覚だけではなく、自治・地域振興課や観光交流推進課、農村振興課等の中山間地域支援の部分からも多面的な方向性を検討していかなければいけないと考えているので、引き続き市としては、まちづくりの方向性を充分重視しながら進めさせていただければと考えている。

【坪田会長】

施設が設置された目的は、この地域の活性化、そして発展するための一つの施設でもあったので、何としてでも住民の過疎化が進む中で、ある種の目玉がなくなると、ますますこの地が過疎地に変貌していく部分は大いにある。行政としても、そういう目的を考えながら施設のあり方を一度見直していただきたい。存続のある方法を何とか見いだしていただき、努力を惜しまないで頑張ってください。

昨年末から平日は休館しており、私も気になるので土日に温浴施設に行くが、温浴施設は休館日が多いと、どうしても遠ざかってしまう。今日風呂に入りたいと思っても週末だけの営業となると自分の思った日に行けないのが非常に残念だと思う。土日だけ営業して平日休館の収支決算を見れば、それを土日の2日間の営業で取り戻せるのかという部分もある。それと気持ち自体が遠ざかり、地元の人自体が月曜から金曜まで休みで土日営業していても週末になると、どうしても家族の用事があったりして行きづらい。いろいろな観点から考える部分があるかと思うが、最初の施設のできた目的、あり方自体を考えていただきながら善処していただくような考えをお願いしたい。

【横田委員】

先日、桑取のほうで行われた説明会に参加した。そこではフリートークみたいな感じで、いろいろな意見を言わせてもらった。

市で検討されるということだが、それはいつ頃までに検討されるのか。もし継続して今後も事業続けるということであれば、私も民間の会社で経理とか経営管理をしているが、令和3年度の事業計画みたいなものはあるのか。いつも決算で結果だけの数字を示され、それについて意見を出しても仕方がない。方向づけは難しいかもしれないが、大体の収益はどのくらいの見込みなのか。あと今まで、いろいろな意見があった中で、どの部分を取り入れているのか。固定経費については、おそらく絞り切っていると思うので、営業で集客するためにプラスアルファの経費があるのであれば、それも含めての収支見込み等はないのか。また、それを何か月ごとに見直すのか。理念や数字だけでは追

い付かない。それをこういう場でオープンにして良いのか分からないが、できれば皆さんの意見を反映するような形で持って行っていただきたい。

【施設経営管理室：竹下室長】

まちづくりを決める大事なものなので、市が一方的に方向性を示して協議を進めさせていただくのが良いのか、また同時並行的に、こういったことをすれば良くなるのではないかといったものを模索しながら進めている。例えば3年、5年やってみて結果が伴わなければ抜本的に考える等のいろいろな進め方があると思う。どのように皆様と協議していくのか、やり方として適しているのかというのが、市の中でも決めきれていない。間違った部分でも、いきなり市の考え方を一方的にやってしまうと本当にこれまでの行革的な出し方にもなってしまうし、一方である程度出していかないと議論も進まない。そこを今、内部で検討させていただいているので、今後、その進め方や取組といった詳細を説明させていただき、皆様の了解を得た上で、初めて引き続き協議というものを進めさせていただければと考えている。

【坪田会長】

他に意見を求めるがなし。

— 施設経営管理室 退室 —

次に**【協議事項】** 令和3年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.2「令和3年度地域活動支援事業 谷浜・桑取区の採択方針等について（案）」に基づき説明

【坪田会長】

それでは採択方針から順に決定していきたいと思う。

採択方針についてはどうか。

○採択方針：資料No.2のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○募集期間：4月1日（木）から4月28日（水）まで

○周知方法：資料No.2のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○補助率等：資料No.2のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○審査方法：資料No.2のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○その他：資料No.2のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

それでは、令和3年度地域活動支援事業の採択方針等については、以上のとおり決定

とする。

【佐藤峰生委員】

以前の地域協議会でも言ったが、谷浜・桑取区はなかなか地域活動支援事業の提案が出にくい傾向がある。この地域協議会がある程度リーダーシップを取っていくことが必要なのではないか。過去の提案内容の中から令和3年度に展開するたたき台となるものを審議する場を設けて、それをどういうステップを踏んで提案団体につなげていくか。日程的にここのメンバーが集まってそれを検討して、これをたたき台にするというのを決め、それを4月の募集期間の中で提案者に提供する。そういうのが必要なのではないかと思う。

提案されたものを、ただ審議するだけではなく、そもそもここで検討したものもある意味では審議の項目として挙げるようにすべきだと思う。

【坪田会長】

提案していただくための糸口というか、提案しやすい方向性を作るということか。

【佐藤峰生委員】

ある提案とある提案を結びつけたら新しい提案が出るのではないか。今までの提案だと、単発的な形で終わっているのもあるので、活動が展開して欲しいと思う内容のものがある。

【坪田会長】

当区の地域性なのか提案が謙虚である。毎年配分額が残ってしまう。ただ、使えば良いというものではないので、当然有効活用しているのが、地域内の活動の中にあるので、それを少しでも糸口として、提案される人にやりやすい方法を与えたらどうかということか。

【佐藤峰生委員】

当区の採択方針の中で、地域振興事業とか生活環境の向上とかいろいろある。この地域も過疎化が進んでいる。私も町内会長をやっているが強く感じるのは、この冬の豪雪の中での安全・安心な地域と少子高齢化に対して懸念している部分がある。高齢者の雪堀は大変で、みんなが安心してこの地域にいられるような、そういうものにもっと使えるようにできればと思うがいかがか。

【坪田会長】

それを各団体等に提案をしながら、それに熟している人たちがまた、そういう提案を

してくると思う。やはり、事前説明はどうしても必要になる。今回の災害的な雪だと「陸の孤島」とよく言葉で言われるが、当然その中においては除雪機等々も各町内に1台あれば道ができる。1車線ぐらいは可能なのかという部分も出てくるし、そういう部分を見つめて皆さんで考えた中で逆に提案に代えていただくような提案をするということである。

【佐藤峰生委員】

私の町内も市から除雪機を借りているが、その事業は令和4年度で終わりであると聞いている。それ以降はどうするのか。市では補助金を80万円出すが、新品で200万円もするような機械を購入するとなると小さな集落では購入することはできない。これが何とかできればと思うこともあるので発言した。

【坪田会長】

提案ではなくて、説明みたいなものを幅広く持たなければいけない部分が出てくるかと思う。今ほど事務局で地域活動支援事業の募集説明会の成果発表を何団体かに絞るという話だが、逆に広い団体の中で出席者を代表のみに絞ったらどうか。

【小池係長】

案内は全ての団体に出す予定にしている。各団体に成果を発表してもらおうと、それだけで時間がかかっていた。以前、委員から意見交換をしたらどうかという提案もあったので、先ほどの佐藤峰生委員の意見も鑑みると、地域協議会だけで団体にしてほしいことを話し合っても本当にそれをしていただけるのかという疑問や各団体にも事業をやっている中で困っていることなどもあると思う。そのため、3月20日の募集説明会で意見交換会を一緒に開催できればと考えているが、いかがか。

【坪田会長】

委員の皆さんからは、なるべく参加していただき、そういったことを参考に意見交換をする必要性はあると思う。意見交換する団体の中で、この部分は提案できるのではないかという部分を見出していけるかもしれないので、そのような方向で進めていきたいと思うが、いかがか。

(意見なし)

【小池係長】

3月20日の進め方だが事務局からの説明はそんなに時間をとらない。提案の相談は個別に時間を取って行っているので、意見交換会に時間を割いて1時間ぐらいで団体の

実情を教えてもらったらどうか。その上で必要であれば、今後、少し時間をかけて協議していても良いのではないかと感じた。

【坪田会長】

募集説明会当日の成果発表も必要ないのではないかと。どういうものが提案されてきて、どういうものが採択されたのかという資料はあると思うので、それに対する説明は特に必要ないような気がする。その時間を省けば意見交換の時間が若干取れるかと思う。そっちのほうがむしろ大事かもしれない。

【佐藤峰生委員】

谷浜・桑取区は一体だと言うが、実際は桑取地区、南部地区、西部地区、長浜地区では思いが違う。意見交換する場がなかなかないので、一体だとは言いながら皆さんどうという考えで持っておられるのか分からない。市で言われても意見がなかなか出せないような状況だと思う。その辺も含めてこの地域協議会でもみんなで話したほうがいろいろな意見が出るのではないかと。

【坪田会長】

谷浜・桑取区内には桑取会、谷浜地区南部協和会、五ヶ浦振興協議会等、たくさんの会がある。そのため、段階を踏んで、団体内で管轄する地域との協議の中においては、かなり理解しつつも、いろいろな意見が出されていると思う。それを全体の中に出してもらおうとより生きてくるのではないかと。

【佐藤峰生委員】

意見がまとまれば地域の活性化にも繋がるのではないかと。今のままだとばらばらで自分たちの区は自分たちのことだけで、他の地区のことは関心がない。

【坪田会長】

団体同士の意思疎通や共通認識を持っていただくと、何かやっていかななくてはいけない部分も出てくるのではないかと。

【田村委員】

事務局へ確認だが、地域活動支援事業の予算は今年度と同額と見ていいのか。民間企業はコロナの影響で売り上げが下がり、市の財政もひっ迫している。そういうことを鑑みると同じようなやり方で良いのか疑問である。

【小池係長】

地域活動支援事業の各区の予算については、担当課として来年度も同額で予算要求し

ている。正式には令和3年市議会3月定例会で決まることになる。

市も財政が厳しいが、地域活動支援事業については、政策的な面からも継続して行うということで進めている。

【坪田会長】

範囲内で有効活用していけば良いということである。

次に「その他」について事務局へ説明を求める。

【小池係長】

次回の協議会の日程については、現在、直近で協議を行わなくてはならない諮問等の案件はない。議題等が出てきたら会長と相談して、ご案内をさせていただく。

また、3月20日の募集説明会の案内は別途郵送でご案内させていただく。

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp 1

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。